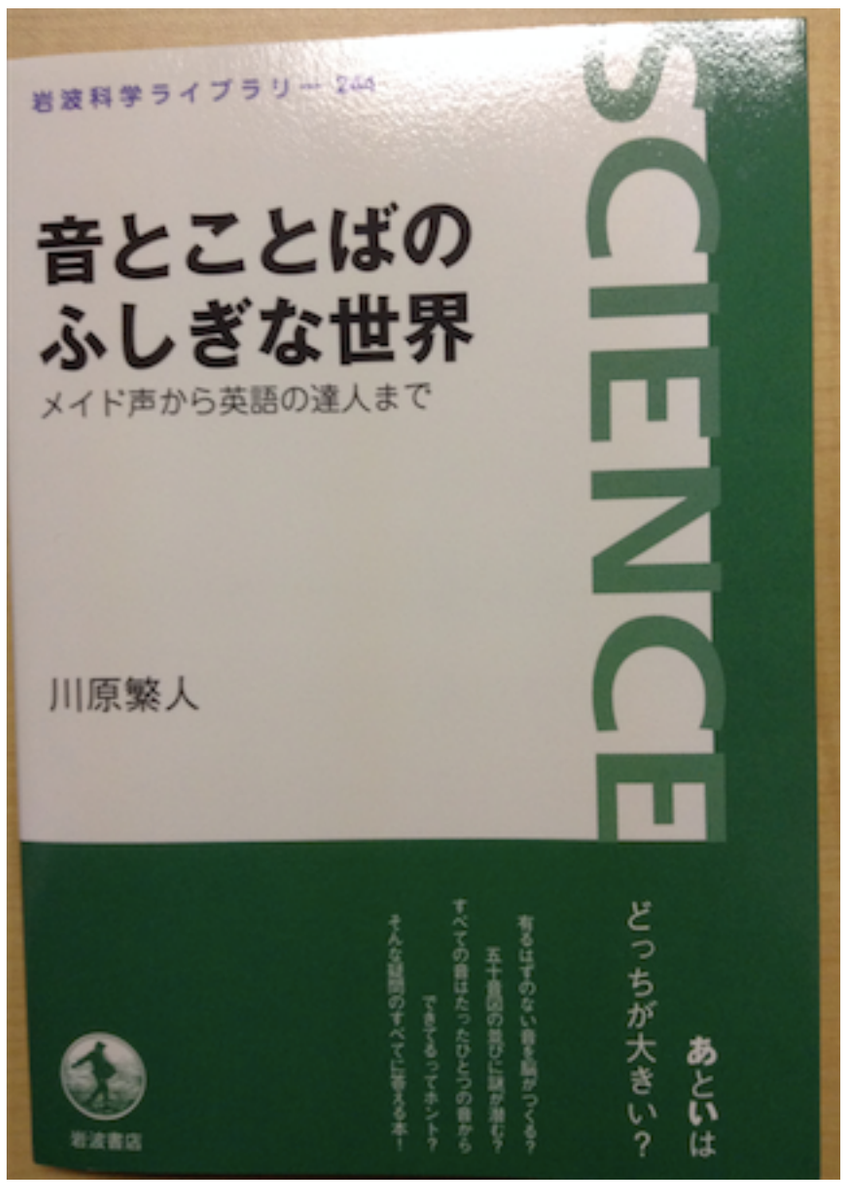
研究ブログ

2015/11/17 『音とことばのふしぎな世界：メイド声から英語の達人まで』ご恵贈御礼

| by yearman

川原繁人さんより『音とことばのふしぎな世界』（岩波書店）をご恵贈いただきました。ありがとうございました。



以下簡単な紹介と感想を。

11/17 12:30 少し修正しました

目次　岩波書店のページより

プロローグ──日本人は英語が苦手？
第1章　「マル」と「ミル」はどちらが大きい？──音象徴
第2章　「あかさたな」とサンスクリット研究──音声学のはじまり
第3章　世界中のことばを記録する方法──記述音声学
第4章　音を目で見る──調音音声学
第5章　声紋分析官への道──音響音声学
第6章　ないはずの音が聞こえる日本人──知覚音声学
第7章　社会との接点を目指して──福祉音声学
エピローグ──さらなる視界へ

第3章から第6章で取り上げられているトピックは音声学の標準的な教科書（たとえば斎藤純男『日本語音声学入門』）にも見られますが，ラップの話が出てきたり，様々な言語や現象の図表や事例を駆使して分かりやすく書かれています。また，第1章にある音象徴と，第7章にある福祉音声学の話は他には見られないのではないでしょうか。ということで，以下ではこの2つの章についてもうちょっと詳しく書きます。

第1章で取り上げられている音象徴とは「音から意味の連想が直接起きる現象」(p.6)のことで，本書では怪獣などの名前は濁音（例：ガ，ザ，ダ，バ）を含む方がふさわしいなどの例を挙げています。音と意味の間には決まった関係はない，だから例えば同じ動物を指すのにinuと言ったりdogと言ったりköpekと言ったりする，などということは言語学の入門の授業で習います。しかし，一定の音には一定のイメージがつきまとうことも事実で，この本ではこれをきっかけに音声の魅力を語っています。

また，締めとなる第7章では音声学と社会との繋がりについて述べています。ここ数年来，大学にいるものとしては自分の研究が社会に対してどう「分かりやすく」貢献するかを意識させられます。言語学や音声学は人間の言語の仕組みの一端を明らかにするという側面があります。それはひいては人間というものの理解につながるわけですから，これだって立派な社会貢献であると言うこともできるのですが，特にここ数年は「分かりやすく」ということが求められており，今のような文言では不十分なのかなと感じることがあります*1。

本書で川原さんが取り上げている「社会との繋がり」は次の4つになります。

- 危機言語
- 音声工学
- 外国語学習
- ALS患者への支援

ここで目を惹くのが最後のALS患者への支援（マイボイス）です。これについてきちんと取り上げたのは本書が最初ではないでしょうか。詳しい説明は本書に譲りますが，ざっくり言うとこれはALS患者にあらかじめ自分の声を録音していただき，声を失ったあともPCを使って自分の声でコミュニケーションを取るためのソフトです。

さて，本書は本そのものだけで完結しておらず，補助教材としてビデオ動画や音声が用意されています。1つは出版社のページにまとめられているもの，もう1つは川原さんのページにあります。これらを眺めるだけでも音声や言語の面白さが伝わってくるのではないでしょうか。特にベルベル語の子音だけの文は一聴の価値があります。

最後に，本書は入門書にしては珍しく，参考文献が充実しています。特に新書では文献が省略されることが多く，授業で扱うときにちょっと困ることもあります(もっともこれは私の授業の特殊性によるところですが)。また様々な図やサイトへのリンクも紹介されています。当然ながらこれは書籍なので直接リンクが張られていません。せっかくなので以下にいくつかリンクを張っておきます。

第1章

- 図1-2のオリジナル図
- Perfors, A. (2004) What's in a name? The effect of sound symbolism on perception of facial attractiveness. Proceedings of CogSci 2004. [PDF] [解説記事]*2
- 川原繁人(2013)メイド文化と音声学『メイドカフェ批評』[PDF]
- 秋田喜美先生による音象徴の文献目録

第2章

- 上田萬年「P音考」[テキスト]
- 音韻的ラップの世界 [PDF]

第3章

- IPAの表
  ※本にあるURLだと図がないページに飛ぶので音声付きのところをリンクしています
- iPA phonetics
- Journal of International Phonetic Association
- IPA handbookのサポートページ（本に所収された言語の音声が聞ける）
- 世界の音が視聴できるサイト
- ベルベル語の子音だけでできた文（論文へのリンクができなくなっていたので，川原さんのページのみ）
- 田窪行則先生　デジタル博物館「ことばと文化」

第4章

- ツォンガ語のエコー分析[論文]
- EMAによる日本語の顎の開きの分析 [論文]

第5章

- Praat

第6章

- パトリシア・クールのTED講義 [youtube]

第7章

- マイボイスのサポートページ

この本をきっかけに音声学に興味を持つ人が増えることを願っています。

---
[1] 個人的なきっかけは若手研究者の育成・支援が事業仕分けに取り上げられたことにあります。私自身のこの仕分けに対する評価は悪くはないのですが，上の書き方だと誤解を招きそうですね。
[2]実験に使ったサイトとしてhotornot.comというのが紹介されていたのですが，今（11/17）見たら出会い系サイトに変わっていたのでリンクは控えています。元からそういうサイトだったのでしょうか？
続きを隠す<<

11:55 | Impressed! | Voted(1) | Comment(0) | 書評